

(令和4年2月28日)

< ワンポイントレッスン (実践) >  
( 最近のマーケット・インディケーターから (2) )

このサイトのマーケット・タイミングは、マーケットの状況を表す各指標の統計から、行き過ぎを捉えるようにしています。また、年間の日経平均の変動幅(高値-安値)を前年末日経平均で除した変動率は、多くは20%~30%の範囲に収まることが多く、年間10%程度の収益を狙うのがコンセプト。その中で「底値圏指数」は数多くの指標を多変量解析で総合的にみたものです。

下記のグラフにあるように、1.0を上回ってくるとボトムゾーン、反転が近いことを示唆します。20年3月の新型コロナショック時は、大きく行き過ぎを示しました。現在は、行き過ぎ水準の入り口水準に到達したところ、通常の波動の域内です。

セリング・クライマックスを含めた総合的な逆張り指標として、フォワード・テストを続けているところです。

(底値圏指数)



All Copyright © ゴールデン・チャート社

なお、セリング・クライマックスは、移動平均の下方高乖離率と出来高の急増を伴うのが経験則。この先のトレースする際のご参考に。

(了)